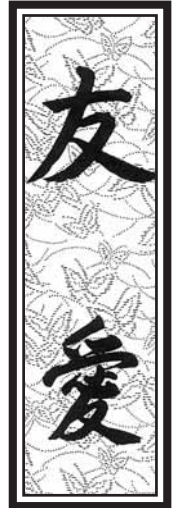


『友愛』創刊500号

財団法人日本友愛青年協会

鳩山由紀夫前理事長

内閣総理大臣就任



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川2丁目2階

TEL: 03-5684-3188

FAX: 03-5684-3186

E-mail: yuai@gj8.so-net.ne.jp

http://www.yuaiyouth.or.jp

発行人 川手正一郎

編集人 鶴巻克雄

隔月1回 10日発行

購読料

年額 3,000円



「友愛」を政治理念に

鳩山由紀夫内閣誕生

鳩山一郎総理から五十五年 二十一世紀の「友愛」展開



平成21年9月16日 鳩山由紀夫内閣誕生

写真提供：共同通信社



昭和29年12月10日 第一次鳩山一郎内閣誕生

『友愛』創刊五百号によせて

前理事長 鳩山由紀夫

『友愛』が創刊五百号を迎えました。今日まで(財)日本友愛青年協会を、『友愛』を育ててくださった多くの方々に、心からの御礼を申し上げます。

『友愛』が創刊されたのは、昭和二十八年、私が六歳の時です。祖父の想いのもと育った『友愛』と私たち姉弟。私にとって、『友愛』は、兄弟のように入っています。しかし、創刊号の祖父の満面の笑顔と、「生涯最高の喜びである」という言葉をみるにつけ、『友愛』は孫より可愛かったのだらうと感じています。

祖父一郎にとって、『友愛』の理念を書き通すことは、政治家として、家庭人として、人間としての根源であったのでしよう。命がけのソ連訪問はその一つの現れです。

そうした祖父の想いの『友愛』を政治理念に掲げ、政治の道を行ってきた私ですが、この度内閣総理大臣に就任いたしました。これも皆様のご支援の賜物と、この場をお借りして、御礼申し上げます。

十六日の宮中での官記拝受に始まり、生まれて初めての出来事。体験に、感激したり喜んだりしている暇もない程、忙しく時間に追われております。『友愛』を通じて出会った沢山の方々からの教養を胸に、一つ一つの職務を遂行していく所存です。

そして祖父一郎の薫陶を受けて育った姉弟二人で、『友愛』の発展に力を合わせて参ります。今後ますますのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。

友愛時評

『友愛』が五〇〇号を迎えたので、それにあつた話を書けと、編集のM女士から宿題を渡された。さて、と様々な思い出をたどって見たが、特記するほどのことは、とんと思いつかない。

創刊から数えて五百回、機関誌『ゆうあい』も含めれば、およそ私ほど執筆した者はないと自負するところではあるが、これと言つて語る出来事がないのは、訳がある。創刊以来今日まで、一号一号続けていく事だけを目標にしていたからだ。思い起こせば半世紀以上、永い年月である。自身自身の年齢を考えれば、今更おとろくには足りない。

出版物を継続させることは並々ならぬ努力を要する。雑誌など発行後一、二号で消えて行くものさへあるから、営利を目的としては見栄にみえる。しかし、発刊当初は、携わっている者すべてが無給で、各々のもつ情熱だけが継続のエネルギーであったから、五〇〇は金字塔といえるだろう。振り返ってみると、私自身も原稿料というものにお目にかかったことがない。さて、未来を見据えたとき、『友愛』は時代の流れのなかで、どのようにならざるを得ないのか。一郎先生に続く鳩山由紀夫総理の誕生をみるに、世代交代はすれども、『友愛』不滅なりの思いでいっぱい。

理事 深津 榮一

鳩山由紀夫前理事長 アルバム特集



親任式：天皇陛下から官記（任命書）を拝受 写真提供：共同通信社



官 記（実寸は縦：22.5cm 横：29.5cm）



鳩山一郎先生・薫先生と一緒に（鳩山会館にて）前列・左鳩山由紀夫前理事長・中井上和子理事長代行・右鳩山邦夫副理事長

鳩山由紀夫総理誕生

写真で追う 9月16日

総理誕生の瞬間（写真左下）本会議場にて投票（写真下中）総理大臣就任後初の記者会見（写真下右）

写真提供：共同通信社



1996年「友愛」、「排除の論理」で流行語大賞受賞

新しい政治と政党のスタイルを言葉の上からも斬り込んでいった鳩山は、数々の新語を生み出した。なかでも「友愛」は中曽根元首相に「ソフトクリームのような」とからかわれても「夏にはおいしい」と切り返し、政治理念を守り通した。一方、安易な寄り集まりを排除した「排除の論理」は、感情的な批判に屈することなく貫き通す冷厳さを見せ、株を上げた。

写真・資料提供：ユーキャン新語・流行語大賞事務局

祝『友愛』創刊500号

祖父の想い

理事長代行・副理事長 井上 和子
 今も目に焼きついている光景がある。首羽の家(現在の鳩山会館)のベランダに、庭の方を向いて祖父・鳩山 一郎が立っている。祖父の前には細長いテーブルがあり、書生さんが祖父の右横からさつと紙を置く。祖父は左半身不随の身でありながら、筆にたつぷりと墨を含ませ、孫の私から見て「友愛」、「友愛」。十二、三歳の私は祖父の左側に立って、それをじつと眺めている。そしてこの時から「友愛」は私にとって特別な言葉となった。友愛の思想を世の中に広めたいと云う祖父の想いが友愛青年同志会(日本友愛青年協会の前身)を誕生させ、機関紙『友愛』は昭和二十八年二月に創刊された。創刊号に載っている祖父の笑顔を見れば、祖父がこの事をいかに喜んでいたらが良く分かる。以来五十六年、今号で新聞『友愛』は五〇〇号を迎えた。華々しく発足した友愛青年同志会の活動は、紆余曲折を経ながらも脈々と受けつがれ、現在に至っている。新聞『友愛』を読んでいた事は言ってもない。

「友愛」は私にとって特別な言葉となった。友愛の思想を世の中に広めたいと云う祖父の想いが友愛青年同志会(日本友愛青年協会の前身)を誕生させ、機関紙『友愛』は昭和二十八年二月に創刊された。創刊号に載っている祖父の笑顔を見れば、祖父がこの事をいかに喜んでいたらが良く分かる。以来五十六年、今号で新聞『友愛』は五〇〇号を迎えた。華々しく発足した友愛青年同志会の活動は、紆余曲折を経ながらも脈々と受けつがれ、現在に至っている。新聞『友愛』を読んでいた事は言ってもない。

「友愛」は私にとって特別な言葉となった。友愛の思想を世の中に広めたいと云う祖父の想いが友愛青年同志会(日本友愛青年協会の前身)を誕生させ、機関紙『友愛』は昭和二十八年二月に創刊された。創刊号に載っている祖父の笑顔を見れば、祖父がこの事をいかに喜んでいたらが良く分かる。以来五十六年、今号で新聞『友愛』は五〇〇号を迎えた。華々しく発足した友愛青年同志会の活動は、紆余曲折を経ながらも脈々と受けつがれ、現在に至っている。新聞『友愛』を読んでいた事は言ってもない。

友愛 共生の哲学

副理事長 鳩山 邦夫

「友愛」が創刊以来五百号を迎えたことは、何ともしばらしいの一語に尽きよう。その間、忙しく青年運動に邁進し、全国を行脚しながら、嘗々と一号ずつ『友愛』を積み上げてこられた諸先輩の流した汗を思うと、ひたすら頭の下がる思いになる。

私が小学生時分、地下の友愛本部へ遊びに行くと、和文タイプをいたすらしたり、当時の奥田幹事長の邪魔ばかりしていたのを思い出す。あのころ、『友愛』は何号くらいだったのだろうか。私も兄も友愛運動の真の実践者ではなかったのに、政治や選挙関係の文書には常に友愛を使ってきたし、演説でも『友愛』のモノサシで測れば、正しいこと、誤っていることの違いは簡単にわかるのだ。とか、『友愛』は、弱者を救う正義である。などと、友愛をフル利用してきた。兄弟でつって友愛を政治利用し過ぎてきたことは率直に反省すべきである。

友愛は政治運動ではない。友愛は理念であり共生の哲学である。私は信じている。とすべし。今後は私たちが兄弟の最大の責務は、与野党の壁を乗り越えて、友愛社会に向かって共闘し、それを実践することにならなければならない。

五〇〇号を記念して

常務理事・友愛 発行人 川手 正一郎

友愛は昭和二十八年に創立されました。その後幾多の曲折がありましたが、皆様の英知で過なく今日を迎えられましたことは、誠に有難く同慶の至りであります。

特に、鳩山安子元理事長には心暖まる特段のご指導を賜り、先ずいで、厚く御礼申し上げます。思想が単なる夢に終わるのか、それとも現実のものになるのかは、それを信ずる人の数による。その思想を信ずる人の数が多ければ多い程、その思想は現実のものとなるというカレルギーの言葉はありませんが、二十世紀に向けてこの五十六年間希求した友愛社会への扉が、ようやく開かれようとしている今、その期待に胸がときめき、感慨を新たにしているところでございます。そして友愛一筋に淡淡と歩み続けた我が道を顧みて、ささやかな喜びとプライドを感じるとともに、現在まで友愛を支えて下さいました関係各位に、改めて心から感謝と御礼を申し上げ友愛の限りない発展を期し、五〇〇号記念のご挨拶と致します。

「友愛」五〇〇号を迎えて
 常務理事・友愛 編集人 鶴巻 克雄
 昭和二十八年二月二十五日に創刊された友愛青年同志会の機関紙『友愛』で鳩山一郎先生は、自由と平等とはかく相容れない対立関係にある。この両者の対立関係を解消して両立させるのでなければ真の民主主義は成立しない。この両者を調和し統一するものは友愛精神を描いて他に求むべくもありません」と友愛革命と民主政治について提唱されている。

「友愛」を読んで胸踊り、青春の血を滾らせたことが昨日のことのように思われる。

以来、友愛青年同志会から友愛青年連盟(財団法人)・日本友愛青年協会へと名称と活動内容に若干変化をしながら歴史を歩んできたが機関紙『友愛』の名称は不変で五〇〇号発刊の、感動の時期を迎えることになった。時を同じくして、友愛の実践者である鳩山由紀夫理事長が内閣総理大臣に就任するという二重の喜びを友愛の同志とともに慶びたい。

びら配り

理事 奥田 吉郎

たゆまなく続いた『友愛』二二二に、創刊五〇〇号を迎え、誠にめでたいです。

時あたかも、友愛を提唱する鳩山由紀夫総理の実現を見、二重の喜びとなりました。

友愛青年同志会の創立に参画し、青春をかけて

共に歩んできた私にとって、鳩山一郎先生直筆の友愛を題字に頂く、機関紙『友愛』は、重要な「宝物」でありました。それは、全国の同志を結ぶ生命線であり、友愛の支援者との絆だったからです。

友愛精神を伝え、会を宣伝するため、機関紙『友愛』を、早期主要大学の登校する学生に配布、また都心の各地で通行人に配布、地方に出かけ、繁華街で配布、それを続けました。

今後、更に発展、持続を期待します。

よみがえる『友愛』

元事務局長 渡辺 昇
 「友愛」の提唱者カレルギー伯は「不転転の勇氣と真実を求める精神」を強調しているように、やもすれば軽い気持ちで受け止められがちな『友愛』は非常に頑固なものであり、いるあせることのない理念なのである。昨今のように市場原理主義が横行し人間の尊厳が失われた社会への警鐘として、『友愛』がよみがえったとみるべきと思う。旧友愛青年同志会(現日本友愛青年協会)が設立され、この機関紙として、『友愛』も五〇〇号を数えるという。

時あたかも、『友愛』を声高々と唱え、乱れた社会を正す先頭に立つ鳩山由紀夫総理の時代が来たのである。ますます機関紙『友愛』の発展を期待してやまない。

万有友愛の世界
 友愛クラブ会員 佐々木 恵美子
 まずは新聞をよくここまで続けることが出来、会の皆様と事務局の皆様感謝申し上げます。次いで鳩山由紀夫総理大臣誕生にバンサイです。

総理誕生の成り行きは、ずっとテレビにかじりついて拝見してあります。こんな事は初めてです。そして由紀夫先生が総理になられた時「雲ひらき 朝日はほの若きいのちのそだつ」(中略)

「われ人と共に自由 万有友愛の世界 高き理想へ我が同志」という友愛の歌を思い出しました。

機関紙も政治も紆余曲折があるうかと思いますが、それを一つ一つ丁寧に解決して、友愛社会の実現を願っております。

音羽の山のはなれ
 友愛クラブ会員 田中 祥仙
 昭和三十四年、友愛茶道部が発足した。当時幹

事でいらした柳沢定勝氏の呼びかけで三人の女性が動かされたのである。(太田、秋田、田中)会場は決まっていた。音羽の鳩山邸「はなれ」であった。茶の会が終わると青年達は打ちそろって山を下り友愛について語るべく場を移す。

今までのしつやかさほどこへやら、一杯のコーヒで時の経つのを忘れて語り合い、今まで知らない多くの知識に気持ちを高揚させたものである。そうした時を持つことにより、多くの友人を知ることとなった。そこで得た友愛の精神を生かす活動をと、地区行政の生涯学習の講師を務めている。全ての始まりが音羽の「はなれ」であった。

一千号の未来まで
 評議員 福田 八州雄
 機関紙『友愛』創刊五百号発刊、おめでとうございます。創刊号の鳩山一郎先生の満面の笑顔を拝見すると、いかに多くの思いを込めて『友愛』を創刊されたのが伺えて、五百号の今、深い思いに打たれます。

私は当時の事は存じ上げませんが、代議士秘書という職業柄、威一郎先生、邦夫先生とのご縁をいただき、爾來、『友愛』とのご縁を大事に今日に至っています。現在は一郎先生ゆかりの地軽井沢の『友愛山荘』担当を仰せつかり、大事な公益事業の一つがつつが無く実施できるよう、微力ではありますがが尽力している次第です。おかげ様で、現地のスタッフの心を込めた対応に、「ご利用の方々からも好評をいただいております。多くの人が訪れることを、一郎先生、兼先生の銅像も微笑んでご覧くださっていると思います。」

六百号、七百号、そして一千号の未来まで、『友愛』の思いが続くことを信じて、お祝いの言葉とさせていただきます。

「友愛」青春の原点
 評議員 萩原 直三
 初めて本紙『友愛』を意識して手にしたのは、『友愛青年同志会』に入会したばかりの昭和四十一年十一月の第一七八号で、十月に来日されたカレルギー伯と兼会長との対談が一面トップでした。そこには、『友愛』十字軍による世界平和を、という内容が大きく掲載されていました。もとよりその頃の私は二十歳そこそこの学生で、とても友愛の何たるかを理解して運動に関わっていた訳ではありません。ただ、仲間がいるから、というだけで音羽の坂を上っていたものです。

しかし夢中になって友愛運動に関われたその「時間と友人(仲間)」は、まさに私の人生の宝であり、青春の原点そのものとなりました。もちろん

前ページでも「友愛精神」の奥深さは解りませんが、「相互尊重・相互理解・相互扶助」という友愛の三原則は、自己を省みるときに鑑です。

私が編集に携わっていた頃は四〇〇号代だった本紙が、五〇〇号という記念すべき節目を迎えました。我が子の成人にも勝る喜びを感じております。これからも本紙の発展を願い、本紙から「友愛」学び続けたいと思います。

『友愛』発刊五百号に寄せて
友愛クラブ会員 高杉 信美
友愛青年同志会の機関紙『友愛』の第一号は昭和二十八年二月二十五日に発行されました。

以降五十六年の間、紆余曲折を経ながらも友愛社会の実現の為、運動を続けて来た同志達の足跡でもある機関紙が、九月で五百号になるとのことです。関係してきた大勢の同志には感謝の気持ちでいっぱいあります。「有り難うございました」

また時を同じくして、友愛青年同志会の生みの親であり、運動の提唱者鳩山 一郎先生のお孫さんの鳩山由紀夫さんが、一郎先生のお意思を継ぎ、「友愛」の旗を掲げて、第九十三代六十人目の首相の座につきました。「おめでとございませう」

鳩山友愛塾 第二期生を迎え毎回閣達に講義進む

鳩山由紀夫・鳩山邦夫両塾長代行も講義を実施、塾生との交歓も

- | | | |
|----------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------------------|
| 鳩山友愛塾は、二期生を迎え、新たな学期を歩み出した。前年度の多彩な講師陣に加え、更に充実した講師陣のもと、二期生も熱心に講義に向き合っている。 | 生態系協会 池谷奉文会長 | 七月七日 |
| 鳩山由紀夫・鳩山邦夫両塾長代行も、公務多忙な時期ではあるが、講義を実施、塾生も感激している。また、川手正一郎塾長補佐も「友愛」について講義を行った。 | 五月十一日 | 第二回 講師：朝日新聞編集委員・コラムニスト 集委員 |
| 四月二十一日 | 五月十九日 | 早野透先生 |
| 第一回 講師：(財)日本塾長代行 | 五月十九日 | 第三回 講師：鳩山邦夫塾長代行 |
| | 六月九日 | 長代行 |
| | 六月九日 | 第四回 |
| | 六月二十三日 | 直彦教授 |
| | 六月二十三日 | 第五回 講師：鳩山由紀夫塾長代行 |
| | 七月二十一日 | 第七回 講師：鳩山邦夫塾長代行 |
| | 七月二十一日 | 山田桂一郎先生 |
| | 八月八日 | 第八回 講師：国際日本文化研究センター 安田喜憲教授 |
| | 九月十五日 | 第九回 講師：慶應義塾大学政策・メディア研究科 金子郁谷教授 |

私論で恐縮ですが、以前から大臣になれる方達には、理科系出身の方が少ないことに一抹の不安を感じていました。今回は総理をはじめ、副総理、官房、文部科学、と主要大臣に理工系出身者を見たと、内心はほっとしました。何故なら、温暖化対策でもその他マニフェストを実施、実現するには、技術上の知識が必須条件だと考えているからです。ご健闘を祈ります。

友愛との縁
『友愛』五百号おめでとございませう。
私は高知県の出身で明神登美子さんと不思議な縁で知り合っただけで、以来、「友愛」との縁が続いています。

友愛の皆様との出会いは新鮮で貴重な人生の宝物、財産となりました。

中嶋信行理事初め、関係各位のご尽力で開催した「友愛ドイツ歌曲コンクール」は本年二十回を迎えます。計画書からマネージ関係の仕事を手探りで始め、不安は多々ありましたが、皆様の多大なご協力を頂き、事業が今日まで続き、姉妹団体OJ A Bのご協力も頂き、音楽と国際交流が一体となった事業に発展しております。

世界に羽ばたく「友愛」の益々のご発展をご祈念申し上げます。

理事長挨拶に続き第一議題「平成二〇年度事業報告」および第二議題「同年度決算報告」は一括議題、第三議題の「監査報告」を一括議題とし諮ったところ、全会一致でこれを承認した。

【平成二〇年度事業報告】
一、軽井沢友愛山荘、国際交流事業・受け入れ事業
二、国際交流事業・派遣事業
三、オーストリア勤労青年連盟 推薦青年の派遣
四、日中緑化交流基金による植林
五、文化振興・研修事業
友愛ドイツ歌曲コンクール開催
五、刊行物事業
機関紙「友愛」の発行
ホームページの更新
新六、後援等の活動
「鳩山友愛塾」の後援
第四議題「新法施行による財団移行先の決定」
協議にあたり、資料に基づき鶴巻検討委員会委員長より、第七七回理事会および第六八回評議委員会の結果を踏襲し、公益財団法人を旨指さず、一般財団法人に移行すること。理事会、評議委員会で移行先を決定する際には同時に定款等制

「一般財団法人」を選択

平成二十一年五月二十九日(金)第七八回理事会および第六九回評議員会が行われた。平成二〇年度事業報告・決算報告が承認され、新法施行による財団の移行先として、「一般財団法人」を旨指すことが決められた。

定委員会を立ち上げるのと、二項目が提案された。協議の結果、一、一般財団法人移行を旨指す。二、鶴巻常務理事を委員長とする定款等制定委員会(仮)の設立が全会一致により承認された。

第五議題「ドイツ歌曲コンクール二〇年度以降の開催の可否について」
全会一致でドイツ歌曲コンクールの開催を継続することが決定された。

全ての議案の審議終了時間通り閉会した。



軽井沢友愛山荘 鳩山一郎先生の書で新しい看板

軽井沢友愛山荘は、今夏も多岐の方々をお迎えした。散歩で訪ねる方も多し。しかし、目印となる「友愛山荘」の看板が老朽化したことから、この度新規に造り直すこととなった。

「友愛山荘」の文字は、昭和二十九年、友愛山荘設立時に、鳩山一郎先生がこの地で書かれた「書」をそのまま再現、友愛のロゴマークと共に山荘の顔に、日没後はライトアップされ、新しいシンボルとなる。



時事川柳 服部迪夫 作
政權交代 友愛の色に染まった日本
地 図 ヤリ投げ史上初
水軍に日の目をあてる銅メダル
国民が注目する骨密度

めつきり秋らしくなりました。今年は冷夏、東北地方は梅雨が明けぬまま、紅葉の季節になつてしまいまわした。地球温暖化が厳しく問われている昨今、将来どうなるのか、今の科学では全く予測できない感じもします。でも四季は必ず訪れ、人間を花鳥風月の世界へ誘います。八月の選挙は、混沌の気候から、一挙に錦秋の候へと変化し、新しい時代へ転換を告げているように思います。さて、これから社会や生活がどう拓かれるのか。友愛は新しいリーダーとともに世界の人々の幸せと平和に向つてしっかりと手を繋ぎましょう。(K)

三月に友愛塾を修了し、六月に入局した井之輪豪です。初めての「友愛」が五〇〇号の記念号で、嬉しさと緊張が入り交じり、セピア色の創刊号をめくり、「友愛」に込められた想いに触れ、先輩方の「友愛」に想いを馳せる。すべては自分の中の「友愛」を模索するところから始まるのではないだろうか。結果は後からついてくる。そのことを教えてくれた創刊五〇〇号との出会いだった。(GO)

記念号の編集に携われることは、編集者にとっては冥利に尽きることで、それも歴史と伝統に培われた五百号の編集は、喜びと同時に重大な責任を感じます。色のセンスが、初の総頁カラーも、緊張します。読者の皆様喜んで頂けることを祈っております。(モ)